

# 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

## 2022（令和4）年度 第3回運営委員会 次第

I. 日 時 2022（令和4）年11月25日（金）16:00～17:30

II. 方 法 Teams による Web 会議

### III. 報告事項

1. 実績報告書について 【資料1】
  - (1) 2021（令和3）年度実績報告の送付先について
  - (2) 2022（令和4）年度実績報告の提出について
2. 各部門の研究進捗状況について
3. 日赤医学会（旭川）、防災国体（神戸）について 【資料2】
4. 部門カンファレンスについて 【資料3】
5. その他

### IV. 協議事項

1. 研究員の推薦と承認について 【資料4】
2. 研究所の目標、中長期計画について 【資料5】
  - (1) 中長期目標・計画について
  - (2) 2023（令和5）年度研究助成の交付申請について
3. 予算の管理について 【資料6】
  - (1) 2022（令和4）年度予算の執行状況について
  - (2) 事務費の計上について
  - (3) 予算の補正について
  - (4) 2023（令和5）年度スケジュール（案）について
  - (5) 2022（令和4）予算補正にかかる調査（案）
4. 2022（令和4）年度セミナーについて 【資料7】

### VI. 次回 第4回運営委員会

2023（令和5）年2月17日（金）16:00～17:30

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
2022（令和4）年度 第2回運営委員会 議事録（案）

I. 日 時：2022（令和4）年9月2日（金）16：00～17:35

II. 方 法：Teams による Web 会議

III. 出席者：富田、守田、関口、中野、中出、内木、白土、佐藤、森光、古宮、安江、曾篠 以上12名  
丸山、渋澤、門倉、桑原、小暮、大江（事務局） 6名

欠席者：井村

IV. 配付資料

1. 第1回運営委員会議事録（案）
2. 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所2021（令和3）年度実績報告書【資料1-1】  
日本赤十字看護大学附属災害救護研究所2021（令和3）年度実績報告書作成工程について【資料1-2】
3. 日赤医学会（旭川）発表について【資料2-1、2-2】、タイムテーブル【資料2-3】
4. 2022（令和4）年度 附属災害救護研究所 会議日程（案）【資料3】
5. 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所専任研究員 略歴・業績書【資料4-1】  
組織図 2022（令和4）年9月1日現在【資料4-2】
6. 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所規程【資料5-1】  
日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 情報企画連携室要項（案）【資料5-2】
7. 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築 -日赤型モデルの構築-【資料6】
8. 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 災害救護セミナー（企画案）【資料7-1】  
2022（令和4）年度 セミナー（案）【資料7-2】
9. 2022（令和4）年度 附属災害救護研究所 部門カンファレンスについて【資料8】
10. 名刺について【資料9】

V. 議事録確認

2022（令和4）年度 第1回議事録（4月22日開催）については、意義なく確認された。

VI. 報告事項

1. 2021（令和3）年度実績報告書の作成について【資料1-1、1-2】

事務局から、配付資料1-1により実績報告書の原稿について、校正原稿の抜粋部分であることが説明され、研究活動報告の項は、修正の申し出があった部門については修正済である。「災害ボランティア部門」の項については修正前の原稿であるが、修正原稿は印刷業者に渡っているため、今後、他の原稿と併せて校正を行っていくこと。また、配付資料1-2により、今後の報告書作成の主な日程について、併せて報告された。

守田学長から、報告書全体について共有資料として画面で説明された。

白土部門長から、共有資料の中に新聞記事を使用しているパワーポイントスライドがあるが著作権に触れるのではないかと質問があり、事務局で確認を取ることとされた。

他に気づいた点等事務局に知らせてほしい旨、協力が依頼された。

## 2. 各部門の研究進捗状況について

各部門長から、研究等の進捗状況について報告された。

### <災害救護部門>

来年度から本格的な活動がスタートするので、現在準備を進めている段階である。

部門外のことではあるが、今年度中に日本災害医学会の評議員と理事の改選がある。日赤関係者にはなるべく評議員、理事になってもらいたい、9月に評議員の募集があるので、日赤関係者にインフォメーションの予定である。

### <国際医療救援部門>

空気から水を作るシステムに取りくんでいる。その水を循環させ、完全オフ・ブリッドで医療施設をまわしていく。新型コロナの関係で物品の搬入が遅れているが、11月くらいに実験を行う予定。

### <災害看護部門>

先週、部門会議を開催した。パレスチナ支援では、フィジカルアセスメント能力獲得のプロセスについての研究計画書を研究倫理審査に提出しているところである。東日本大震災では、当時看護師として支援活動に関わった、救護班心のケア、病院の支援（石巻日赤）、復興期の浪江町の支援（仮設住宅住民の10年間）の文献検討を行っていく。介護施設の支援（福祉避難所）のインタビューと文献検討を行っていく。

### <防災減災部門>

災害時の運営システムについて、昨年度入手したアメリカ赤十字のマニュアルを7月に全訳が完成した。8月からは訳した中身の読解と日本国内で発刊されているICS関連の書籍の精読を行っていく。また、10月30日に開催される「地域安全学会」において基礎研究の一般論文として発表を行う予定であり、論文の執筆とポスター作製を進めている。

### <国際救援部門>

国際医療救援部門と合同研究として活動している。

10月に開催される日赤医学会の企画・セッション（本社企画）に「国際活動フォーラム～ウクライナ人道危機から見える国際医療救援の課題と今後の展望～」と題し、研究所の国際救援部門として発表を行う。

### <心理社会的支援部門>

部門内の打合せは、定期的に行っている。

研究員のAPRIN研究倫理教育eラーニングの受講は終わった。大学の研究倫理審査には2本申請し、1本は申請が承認されたが、もう1本は条件付きであり、現在変更修正している。リサーチ関係では、COVID-19に関係する医療施設内のメンタル調査、赤十字病院の中でのCOVID-19に関わる支援者支援。職員やスタッフに対する支援がどのように行われていたのかをマッピングする研究が条件付きで承認されたが、修正を加えている。リソース関係では、PFA（サイコロジカル・ファーストエイド）の冊子を翻訳する研究が、部門長のポーランド出張で遅れ気味である。ウクライナ関係で、当部門の赤坂客員研究員がルーマニアで、森光部門長がポーランドで心理社会的支援を行っている。インターエージェンシーのポジションとして、日本人では2名だけであり、当部門からこの2名が出たということは貴重なことなので、ウクライナ関係の心理社会的支援をテーマとして、学会等でコミュニティに還元するようなイベント等発信できるよう計画していきたい。

#### <感染症部門>

7月末に日本環境感染学会総会で災害時の感染症対策について、シンポジストとして発表した。日赤本社の救護班が災害研修を復活するにあたり、コロナ対策をどのように研修と併せて進めて行くかの相談に乗っている。今後、日赤全体に広げていくためには、本社の協力が不可欠である。なお、当研究班に日赤本社で感染対策係に就任した、ヒガシヨウコ看護師の参加協力が得られることになった。

#### <災害ボランティア部門>

日赤医学会で発表を行う。

#### <災害救援技術部門>

寒冷地域での地震津波対応研究として、自動車からの電気の供給、携帯電話の位置情報を使った避難状況の把握の試み、低体温症の予防と取り組みの研究を進めている。

自動車からの電気の供給について、9月発売の月刊誌「新医療」に燃料電池に関する災害時の対応について論文が掲載された。11月に北海道と沖縄で携帯電話の位置情報を使った実証実験を行う予定である。10月の日赤医学会では、パネルディスカッションで発表する。現在企画段階ではあるが、来年の1月に日赤本社において寒冷地での災害対応についてシンポジウムを行う予定である。可能であれば海外の赤十字関係者にも参加していただき、寒冷地での災害対策について知見を共有するプラットフォームを作っていきたい。

#### 3. 日赤医学会（旭川）、防災こくたい（神戸）について【資料2-1、2-2、2-3】

配付資料2-1により、日赤医学会で発表する内容と参加予定者について、配付資料2-2により企画について、配付資料2-3により、当日のタイムテーブルが併せて報告された。

なお、鈴木副社長は参加予定としていたが、富田所長から、当日参加いただき講演を行う予定であることが報告された。

10/22、23に開催される防災こくたいは、ポスターセッションのみ参加することが報告され、掲示するポスターについては、事前に原案を当委員会メンバーに説明、報告し、確認を取ってから防災こくたい事務局に提出することが確認された。

#### 4. 今後の委員会日程について【資料3】

配付資料3により、今年度の会議日程について報告された。

部門カンファレンスの次回（第3回）の担当幹事は、国際医療救援部門であり、中出部門長に10月開催の日程調整と進行について、依頼された。12月の担当幹事は、災害看護部門。

#### 5. 名刺の作成について【資料9】

研究所でデザインを統一した名刺を作成することが報告され、配付資料9により、サンプルが説明され、事務局から名刺作成の希望の有無の確認については、メール配信にて行うことが報告された。

### VII. 協議事項

#### 1. 研究員の推薦と承認【資料4-1、4-2】

専任研究員について、配付資料4-1により経歴等が説明され、以下のとおり承認された。

・心理社会的支援部門 関 真由美（日本赤十字社医療センター メンタルヘルス科 心理判定員）

## 2. 災害救護研究所規程・要項について 【資料4-2】【資料5】

関口事務局長から、配付資料4-2 組織図に基づき、研究所事務局に門倉紀夫大宮キャンパス事務局次長を加え、今回の運営委員会から出席していること、また、学内部会のメンバーにも加わることが併せて説明され、諒承された。

続いて、新たに「情報企画連携室」が設置されたことによる規程の改正案が配付資料5-1により、配付資料5-2により「情報企画連携室要項（案）」が併せて説明され、承認された。

情報企画連携室長に丸山嘉一氏が推薦され、承認された。

丸山室長から挨拶が述べられた。

## 3. 研究所の目標、中長期計画について 【資料6】

守田学長から、配付資料6により、研究所の活動を視覚的に図に表してみたこと、災害発生から中・長期にわたる包括的災害支援モデルを医療支援だけでなく、生活支援等包括的な支援を視野に入れて、3年間から5年間の中・長期計画をたたき台として作成したことが説明され、意見が募られた。

- ・研究所の研究活動が可視化され、見やすくなった。
- ・災害時日赤の姿は、国民からどのようにみられているのか、中・長期支援となった場合でも日赤の姿が見える活動にしていきたい。
- ・防災減災部門の視点から、平時より防災減災に対する取組があり、災害が起こった時に中・長期の支援に繋げる。災害に強い社会を創る。（災害マネジメントサイクル）
- ・災害ボランティア部門から、災害時、保健医療以外の場面をボランティアが担っている。行政、社協、被災者支援（NPO、JVOAD等）との連携、協働。日赤が担う部分がきっちり抑えられているか、考えていく必要がある。
- ・災害のタイプで支援モデルが変わってくる。地震、感染症、放射線、洪水災害等災害のタイプにより急性期に求められるニーズが変わってくる。発災する災害のタイプ別の支援モデルがあっても良いのではないか。他の団体で、中・長期にわたって、支援に携わっている団体は、その事業を行うためだけの資金調達（ファンドレイジング）に成功している。他団体の支援に対する資金調達・調達した資金の流れについての分析や調査研究を行ってみるのも有益ではないか。
- ・NPOは必ずしも資金調達に成功しているわけではない。平時は地域づくりや地域の福祉に関わっている中で、災害時には災害支援をしている。このような団体は、災害時でも活動がスムーズである。が、災害時に特化した団体は、平時のファンドレイジングが厳しい。赤十字がファンドレイジングに成功している一番の団体ではあるが、長期支援になると姿が見えなくなる。

本議題について様々な意見を頂いたが、議論を尽くしたいので、今後、部門カンファレンスの際に意見を寄せられるよう協力が依頼された。

◆訂正 図の中の「現在の研究課題」の部門名について、以下のとおり訂正する。

(正) 防災減災部門研究 (誤) 災害減災部門研究

## 4. 2022（令和4）年度セミナーについて 【資料7-1、7-2】

配付資料7-1により研究所として、年1回定例で研究所セミナーを実施することについて提案され

た。

参加費は無料とし、趣旨等が説明され、協議の結果、災害救護セミナー企画案が諒承された。

続いて、配付資料7-2により、2022（令和4）年度セミナー案について、テーマ、趣旨、形式（講演+シンポジウム）A案、B案が説明された。

テーマとして挙げられている災害関連死については、難しい内容であるため、時間をかけて企画することが必要ではないかとの意見が出された。

協議した結果、実施時期を2023（令和5）年1月または2月とする。内容はB案で行うが、講演のテーマは再度検討する。シンポジウムのテーマを「日赤の災害救護のこれから（仮）」とし、今後企画を詰めていくことでセミナー案が諒承された。

セミナー実施までの今後の予定が報告された。

#### 5. 産学共同研究の実施について

国際医療救護部門と国際救援部門では合同研究として、災害時の医療救護機材の開発を行っている。

関口事務局長より、同部門では現在、企業とのコンソーシアム型共同研究を進めているが、本研究所として初めての事案であるため、企業との共同研究については、委員会において承認を得ておくこととしたい旨説明され、協議の結果、国際医療救護部門と国際救援部門が外部企業と産学共同研究を実施することが承認された。

今後、知的財産帰属に関する事、費用負担に関する事等について、契約書を交わすことが併せて説明された。

#### 6. 部門カンファレンス（第1回、第2回）について【資料8】

今年度から開催している部門カンファレンスについて、第1回（6/17）、第2回（7/22）の主な議題について、配付資料8により報告された。

#### VIII. 次回会議予定

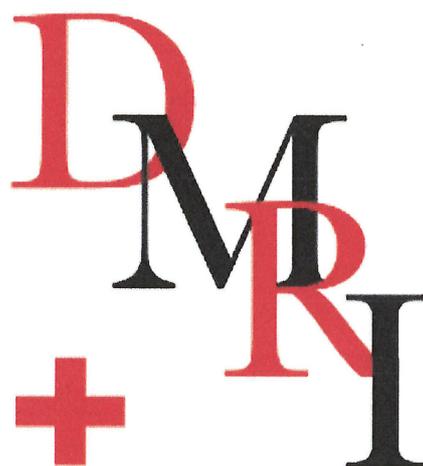
2022（令和4）年度 第3回運営委員会 11月25日（金）16:00～17:30（予定）

（当初予定11/18（金）は本社行事のため変更）

以上

# 日本赤十字看護大学附属 災害救護研究所

## 2021（令和3）年度 実績報告書



学校法人 日本赤十字学園  
日本赤十字看護大学附属  
災害救護研究所

JAPANESE RED CROSS COLLEGE OF NURSING  
DISASTER MANAGEMENT RESEARCH INSTITUTE

## 2021（令和3）年度実績報告書 配付先について

作成部数 300部 追加100部 合計400部

送付先	部数
日本赤十字社	35
赤十字支部	47
赤十字病院	91
赤十字学園5大学	5
日赤看護専門学校・血液センター	66
連絡協議会委員（日赤本社、学園）	7
各部門長・室長	10
各部門の専任研究員・客員研究員	32
情報企画連携室（部門の客員研究員を除く）	4
キックオフセミナー来賓	1
キックオフセミナーシンポジスト 原稿提供者	5
研究所メンバー（学長、所長、副所長、事務局長、事務局職員）	10
経営会議メンバー（研究所メンバー以外）学部長、研究科長、図書館長、学務部長、各領域の教授	24
幹部看護師研修センター	1
助産師学校	1
図書館（アーカイブ） 広尾・大宮	2
その他団体等※	5
配付部数合計	346

残部 54

広尾C、大宮C教職員には、ホームページPDF掲載のお知らせをメール配信にて行う。

※内閣府防災担当、厚労省防災担当、医師会災害担当理事、東京都医師会副会長、日本看護協会 災害医療担当常任理事

## 2023（令和5） 附属災害救護研究所 実績報告書にかかる作業スケジュール

4月	前年度3月下旬 2022(令和4)年度原稿提出
5月	
6月	2022(令和4)年度 発行
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	2023(令和5)年度 記入様式配信
12月	
1月	
2月	
3月	下旬 2023(令和5)年度原稿提出

令和 4 年 11 月 25 日

災害救護研究所  
部門長 各位

災害救護研究所所長

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
2022（令和 4）年度実績報告について

部門長の皆様におかれては、ご清栄のことと存じます。

さて、2022（令和 4）年度実績報告について以下のとおりお願い申し上げます。

1. 送付書類

- (1) 様式 1：2022（令和 4）年度 活動報告・実績報告
- (2) 様式 2：2022（令和 4）年度 業績・社会貢献活動報告書
- (3) 執筆要項

2. 記載方法について

- (1) 部門ごとに取りまとめのうえ提出してください。
- (2) 提出書類（様式 1、様式 2）は、「日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 2022（令和 4）年度実績報告書」としてとりまとめ各関係機関に配付します。  
記載する際は、2021（令和 3）年度実績報告書を参考にしてください。
- (3) 文献の記載方法は執筆要項に準じて記載してください。

3. 提出期限、提出先

2023 年 3 月 28 日（火） 事務局（jrcdri@redcross.ac.jp）あて

（本件に関する連絡先）

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
事務局 大江 薫

電話 03-3409-0875（代）

03-3409-0684（直）

mail: jrcdri@redcross.ac.jp

2022（令和 4）年度 活動報告・実績報告

部門名		部門長氏名	
専任研究員氏名/ 客員研究員氏名			

◆研究テーマが複数の場合、テーマごと作成し、提出してください。

研究テーマ：
研究背景と概要
研究目的
具体的研究計画
研究活動報告
今年度の評価と次年度への課題

2022（令和 4）年度 業績・社会貢献活動報告

部門名	
-----	--

専門学会誌への論文掲載（原著・総説・報告等）※掲載論文別冊または、コピー等を提出する。 氏名 「タイトル」 専門学会名 年度（原著・総説・報告の別）を記載する	
著書、書籍等 氏名 「タイトル」 出版社名 発行年 共著の場合は、担当ページ数（〇〇～〇〇）を記載する	
研究助成金獲得（科学研究費補助金、厚生科研究費補助金） 氏名 研究種目 研究課題名 年度を記載する	
学術集会、学会発表等 ※発表抄録を別に添付する。 発表者 演題名 学術集会名 開催年月 開催場所を記載する	
その他 上記に含まれないものを記載する	

【社会貢献活動】

関連学会等での活動	
講演、シンポジウム・セミナー等 教育・普及・啓発活動 氏名 「タイトル」 講演会等の名称 開催年月 開催場所	

# 日本赤十字社医学会総会

期日：2022年10月6～7日

場所：北海道旭川市



第58回  
日本赤十字社  
医学会総会  
The Japanese Red Cross Medical Society

北の大地から発信する  
共生・協調・協働の未来

会期 | 2022年10月6日(木)～7日(金)  
会場 | 旭川市民文化会館・OMO7旭川・アートホテル旭川  
会長 | 牧野 憲一 旭川赤十字病院 院長

主催事務局 旭川赤十字病院  
〒070-8530 旭川市曙1条1丁目番1号

運営事務局 株式会社コングレ北海道支社  
〒060-0005 札幌市中央区北5条西5丁目2-12 住友生命札幌ビル  
TEL:011-233-0095 FAX:011-233-0035 E-mail:jrcms58@congre.co.jp

寄附取扱  
旭川赤十字病院寄附金クワン  
https://mhikawa-rcb.pharecbs.com/

<https://www.congre.co.jp/jrcms58/>



 日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



# ぼうさい国体 2022

期日：2022年10月22～23日

場所：兵庫県神戸市

内閣府  
HYOGO・KOBE 2022  
ぼうさいこくたい  
未来につなぐ災害の経験と教訓  
～忘れない、伝える、活かす、備える～

同時開催  
ALL HAT  
ひょうご  
防災  
フェスタ  
2022

参加  
無料

令和4年 第7回防災推進国民大会 2022 in 兵庫  
10/22(土) 10:00～18:00  
10/23(日) 10:00～15:30  
※外観等は17時まで

開催場所 兵庫県神戸市のHAT神戸を中心とするエリア  
(人と防災未来センター、国際協力機構関西センター (JICA関西)、  
I.H.D.センタービル (兵庫県国際交流協会、国際健康開発センタービル)、なごさ公園)

開催形式 オンライン併用のハイブリッド形式

詳しくはWEBサイトで! ぼうさいこくたい 検索

企画：防災推進国民大会2022実行委員会（内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議）協力：兵庫県、神戸市、阪神・灘臨大震災記念人と防災未来センター 協賛：兵庫県国際交流協会



緑の会 看護学校附属医療福祉専門学校 PB-13  
VR技術の発展と災害救済研究への期待

**【概要】**  
 本学は、災害発生時の救済活動に貢献するため、VR技術を活用した災害救済研究を進めています。本学は、災害発生時の救済活動に貢献するため、VR技術を活用した災害救済研究を進めています。

**【目的】**  
 災害発生時の救済活動に貢献するため、VR技術を活用した災害救済研究を進めています。

**【方法】**  
 株式会社 Prey  
 空間制作株式会社  
 制作費・制作費  
 ・制作費もスベ  
 ーする。  
 ・買入れた機器は  
 →VR での見せは  
 ・高品質を非  
 コントロール  
 ・救済学校、一般

**【制作手順】**  
 ① どのを強固にし、  
 →あわせて、止か  
 ② 設計図を元に ST  
 →実寸大にするの  
 ③ VR ジョーグルを使  
 ④ 複数人で中に入  
 ⑤ (この手順を複数回  
 ⑥ (おまかせ)

## 2022（令和4）年度 附属災害救護研究所 部門カンファレンスについて

月	回	日程	主な議題	幹事
4月				
5月				
6月	第1回	済 6月17日 (金) 18:00~	1. 開催の趣旨説明、実施方法、開催日程など 2. 日赤医学会、防災国体について 3. 情報交換、フリーディスカッション	事務局（進行：井村）
7月	第2回	済 7月22日 (金) 18:00~	1. 避難所・避難生活学会 活動状況と日赤救護との連携 植田先生 2. 2025年日本災害医学会総会 進捗状況 3. 2022年10月1日内閣府総合防災訓練 研究所の関わり 4. 2022年日赤医学会総会（旭川）進捗状況 5. 2022年防災こくたい（神戸）進捗状況 6. ウクライナ避難民支援 世田谷区事例報告（東京都支部） 7. 情報交換、フリーディスカッション	災害救護部門（進行：丸山）
8月				
9月				
10月				
11月				
12月	第3回	12月26日（月） 18:00~		国際医療救援部門
1月				
2月	第4回	●月●日（●）		災害看護部門
3月				

## 研究員の推薦と承認について

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 運営委員会要項第 3 条第 4 項に則り、以下の推薦のあった研究員 3 名の選考について協議いただきたい。

氏名	室・部門	所属機関・役職	履歴・研究実績等
植田信策	情報企画連携室	石巻赤十字病院 副院長	Zoom 上 画面共有
中村誠昌	災害救護部門	長浜赤十字病院 医療社会事業部長 兼 救急科部長 兼 救命救急センター長	
小林映子	災害救援技術部門	日本赤十字社医療センター 薬剤部・国際医療救援部係長	

【参考】日本赤十字看護大学附属災害救護研究所研究員等に関する要項  
(研究員等の要件)

第 2 条 研究員等は、次に掲げる事項をいずれも満たしている者とする。

- (1) 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所（以下「研究所」という。）の趣旨及び目的を理解し、それらの実現に向けた積極的な意思を有すること。
- (2) 災害救護を中心とした赤十字の諸活動に関する職務経験等を通じて、規程第 3 条に掲げる業務について十分な知見を有すること。
- (3) 関係法令及び規程等を遵守し、品位及び対面の保持に努めるとともに、常に誠意と責任をもって、自らの専門性の維持・向上に努めることができること。
- (4) 本学、日本赤十字社及びその他赤十字関係組織と利益が相反する事項がないこと。

### 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築—日赤型モデルの構築—

	平常時	直後	24時間	72時間	1-3日	1週間	3週間	1か月	2か月	3ヶ月	半年	1年	2年	3年	4年	5年	6年以降	
		急性期支援					中期支援						長期支援					
急性期支援モデル (医療モデル)	災害発生時の体制 対応と その教育	DMAT+各支部・全国の赤十字チーム 研究1：災害支援マニュアル 研究2：災害時テントの開発 研究5：災害時のICS導入を目指す 基礎研究 研究6：被災地における日赤医療活動の感染 対策能力強化に関する研究 研究8：災害時の外部給電車車両の利活用 モデル構築																
中期支援モデル (生活モデル)	防災・減災 への取り組 み	健康支援チーム：医師+看護職、新離職もしくは看護職+新離職 研究3：災害時の心理社会的支援モデル 研究4：中長期の看護支援モデル 研究6：被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究					生活復興支援チーム：看護職、介護職、ソーシャルワーカー、ボランティア、日赤+行政 研究7：災害ボランティアに関する基礎的研究											
長期支援モデル (社会モデル)	地域での 防災・減災	生活支援+健康支援：看護職、介護職、新離職、日赤+行政 社会支援																
地域への復興																地域包括ケア：行政		

#### 現在の研究課題

災害救護部門研究1	災害支援の教育マニュアルの開発
国際救護部門研究2	災害時のテント構築
心理社会的支援部門研究3	災害時の心理社会支援モデル
災害看護部門研究4	中期支援の看護支援のモデル
防災減災部門研究5	ICS導入を目指す基礎研究：システム
感染症部門研究6	被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究
災害ボランティア部門7	災害ボランティアに関する基礎的調査
災害救護技術部門8	災害時の外部給電車車両の利活用モデル構築
地域包括ケア部門9	

#### 今後 3年から5年間で取り組む研究課題の整理

日赤型モデルの構築に向けて、各部門で今後取り組む研究課題の抽出・整理

#### 今後の研究課題の例

- 例：① 避難所支援：避難所支援のあり方研究  
 ② 福祉避難所支援  
 ③ 慢性疾患の悪化予防対策  
 ④ 生活復興支援のあり方：衣食住、生活パターン、家族、職業、心理、への支援のための多職種連携、そのための会議システムの構築  
 ⑤ 生活支援チームの形成：赤十字モデル（看護職、心理職、ボランティアの連携チーム）  
 復興モデル\* 行政との連携  
 ⑥ 支部活動を中心に、チームが集結し活動する支援モデルのアクションリサーチ、（平時から作る支援体制）  
 ⑦ 赤十字の地域包括支援体制と連結し、そこに災害支援時体制を組み込む支援体制構築に向けて

災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデル（医療+生活+社会モデル）の構築—日赤型モデルの構築—



# 研究員

氏名	所属	役職
中野 実	災害救護部門	部門長
丸山 嘉一	災害救護部門	副部門長
高階 謙一郎	災害救護部門	副部門長
稲田 眞治	災害救護部門	専任研究員
岡本 貴大	災害救護部門	専任研究員
中村 光伸	災害救護部門	専任研究員
田口 茂正	災害救護部門	専任研究員
芝田 里花	災害救護部門	専任研究員
高寺 由美子	災害救護部門	専任研究員
上門 充	災害救護部門	専任研究員
中田 正明	災害救護部門	専任研究員
魚住 拓也	災害救護部門	専任研究員
高桑 大介	災害救護部門	客員研究員

氏名	所属	役職
中出 雅治	国際医療救援部門	部門長
杉本 憲治	国際医療救援部門	副部門長
伊藤 明子	国際医療救援部門	専任研究員
内木 美恵	災害看護部門	部門長
尾山 とし子	災害看護部門	専任研究員
森岡 薫	災害看護部門	専任研究員
池田 載子	災害看護部門	専任研究員
小林 洋子	災害看護部門	専任研究員
白土 直樹	防災減災部門	部門長
菊池 勇人	防災減災部門	専任研究員
武久 伸輔	防災減災部門	専任研究員
佐藤 展章	国際救援部門	部門長

# 研究員

氏名	所属	役職
森光 玲雄	心理社会的支援部門	部門長
宮本 教子	心理社会的支援部門	専任研究員
大山 寧寧	心理社会的支援部門	専任研究員
中井 茉里	心理社会的支援部門	専任研究員
長尾 佳世子	心理社会的支援部門	専任研究員
赤坂 美幸	心理社会的支援部門	客員研究員
古宮 伸洋	感染症部門	部門長
小林 謙一郎	感染症部門	専任研究員
安江 一	災害ボランティア部門	部門長
土居 正明	災害ボランティア部門	専任研究員

氏名	所属	役職
曾篠 恭裕	災害救援技術部門	部門長
根本 昌宏	災害救援技術部門	専任研究員
市川 学	災害救援技術部門	客員研究員
津田 直人	災害救援技術部門	専任研究員
吉川 靖之	災害救援技術部門	専任研究員
栗栖 茜	災害救援技術部門	客員研究員

総計：41名

# サポートメンバー

氏名	所属	役職
富田 博樹	連絡協議会	研究所長
守田 美奈子	連絡協議会	学長
井村 真澄	連絡協議会	副所長
関口 忍	連絡協議会	事務局長
渡部 洋一	連絡協議会	学園常務理事
庄野 泰乃	連絡協議会	学園常務理事
鈴木 一寿	連絡協議会	学園常務理事

氏名	所属	役職
飯嶋 喜史	連絡協議会	日赤本社
軽部 真和	連絡協議会	日赤本社
田中 康夫	連絡協議会	日赤本社
永福 勝之	連絡協議会	日赤本社
渋谷 毅	事務局	
桑原 幸一	事務局	
小暮カオル	事務局	
大江 薫	事務局	

## 現在の研究課題

災害救護部門研究 1	災害支援の教育マニュアルの開発
国際救護部門研究 2	災害時のテント構築
心理社会的支援部門研究 3	災害時の心理社会支援モデル
災害看護部門研究 4	中期支援の看護支援のモデル
防災減災部門研究 5	I C S 導入を目指す基礎研究：システム
感染症部門研究 6	被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究
災害ボランティア部門 7	災害ボランティアに関する基礎的調査
災害救護技術部門 8	災害時の外部給電車車両の利活用モデル構築
地域包括ケア部門 9	

## 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築—日赤型モデルの構築—

	平常時	直後	24時間	72時間	1-3日	1週間	3週間	1か月	2か月	3ヶ月	半年	1年	2年	3年	4年	5年	6年以降
		急性期支援					中期支援						長期支援				
急性期支援モデル (医療モデル)	災害発生時の体制 対応と その教育	DMA T+各支部・全国の赤十字チーム 研究1：災害支援マニュアル 研究2：災害時テントの開発 研究5：災害時のICS導入を目指す 基礎研究 研究6：被災地における日赤医療活動の感染 対策能力強化に関する研究 研究8：災害時の外部給電車車両の利活用 モデル構築															
中期支援モデル (生活モデル)	防災・減災 への取 組み	健康支援チーム：医師+看護職、新離職もしくは看護職+新離職 研究3：災害時の心理社会的支援モデル 研究4：中長期の看護支援モデル 研究6：被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究					生活復興支援チーム：看護職、介護職、ソーシャルワーカー、ボランティア、日赤+行政 研究7：災害ボランティアに関する基礎的研究										
長期支援モデル (社会モデル)	地域での 防災・減災	生活支援+健康支援：看護職、介護職、新離職、日赤+行政 社会支援															
地域への復興		地域包括ケア：行政															

## 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築—日赤型モデルの構築—

	平常時	直後	24時間	72時間	1-3日	1週間	3週間	1か月	2か月	3ヶ月	半年	1年	2年	3年	4年	5年	6年以降
		急性期支援					中期支援						長期支援				
急性期支援モデル (医療モデル)	災害発生時の体制 対応と その教育	DMA T+各支部・全国の赤十字チーム 研究1：災害支援マニュアル 研究2：災害時テントの開発 研究5：災害時のICS導入を目指す 基礎研究 研究6：被災地における日赤医療活動の感染 対策能力強化に関する研究 研究8：災害時の外部給電車車両の利活用 モデル構築					<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>医療社会事業部会議</b> 10月6日 10時～ 第10会場                     </div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> <b>密接な関係</b> </div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;">                     社会福祉・地域連携・MSW                 </div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 5px;">                     災害救護活動                 </div>										
中期支援モデル (生活モデル)	防災・減災 への取 組み	健康支援チーム：医師+看護職、新離職もしくは看護職+新離職 研究3：災害時の心理社会的支援モデル 研究4：中長期の看護支援モデル 研究6：被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究					生活復興支援チーム：看護職、介護職、ソーシャルワーカー、ボランティア、日赤+行政 研究7：災害ボランティアに関する基礎的研究										
長期支援モデル (社会モデル)	地域での 防災・減災	生活支援+健康支援：看護職、介護職、新離職、日赤+行政 社会支援															
地域への復興		地域包括ケア：行政															

# 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築—日赤型モデルの構築—

	平常時	直後	24時間	72時間	1-3日	1週間	3週間	1か月	2か月	3ヶ月	半年	1年	2年	3年	4年	5年	6年以降	
		急性期支援					中期支援						長期支援					
急性期支援モデル (医療モデル)	災害発生時の体制 対応と その教育	DMAT+各支部・全国の赤十字チーム 研究1：災害支援マニュアル 研究2：災害時テントの開発 研究5：災害時のICS導入を目指す 基礎研究 研究6：被災地における日赤医療活動の感染 対策能力強化に関する研究 研究8：災害時の外部給電車車両の利活用 モデル構築					医療社会事業部会議 10月6日 10時～ 第10会場						社会福祉・地域連携・MSW 災害救護活動					
中期支援モデル (生活モデル)	防災・減災 への取組み	健康支援チーム：医師+看護職、新離職もしくは看護職+新離職 研究3：災害時の心理社会的支援モデル 研究4：中長期の看護支援モデル 研究6：被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究					ソーシャルワーカーフォーラム 10月7日 9時～ 第6会場						つながる 連動 災害支援プロジェクト 地域包括ケアプロジェクト					
長期支援モデル (社会モデル)	地域での 防災・減災	生活支援+健康支援：看護職、介護職、新離職、日赤+行政 社会支援																
地域への復興		地域包括ケア：行政																

# 災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデルの構築—日赤型モデルの構築—

	平常時	直後	24時間	72時間	1-3日	1週間	3週間	1か月	2か月	3ヶ月	半年	1年	2年	3年	4年	5年	6年以降													
		急性期支援					中期支援						長期支援																	
急性期支援モデル (医療モデル)	災害発生時の体制 対応と その教育	DMAT+各支部・全国の赤十字チーム 研究1：災害支援マニュアル 研究2：災害時テントの開発 研究5：災害時のICS導入を目指す 基礎研究 研究6：被災地における日赤医療活動の感染 対策能力強化に関する研究 研究8：災害時の外部給電車車両の利活用 モデル構築					強靱な地域防災減災システムの構築												しっかりとした地域包括システムの存在											
中期支援モデル (生活モデル)	防災・減災 への取組み	健康支援チーム：医師+看護職、新離職もしくは看護職+新離職 研究3：災害時の心理社会的支援モデル 研究4：中長期の看護支援モデル 研究6：被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究					生活復興支援チーム：看護職、介護職、ソーシャルワーカー、ボランティア、日赤+行政 研究7：災害ボランティアに関する基礎的研究																							
長期支援モデル (社会モデル)	地域での 防災・減災	生活支援+健康支援：看護職、介護職、新離職、日赤+行政 社会支援																												
地域への復興		地域包括ケア：行政																												

災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデル

(医療 + 生活 + 社会 モデル) の構築

**= 日赤型モデルの構築 =**

令和 4 年 11 月〇日

災害救護研究所  
部門長 各位

災害救護研究所所長

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
中長期（2023～2028 年）の目標等について

部門長の皆様におかれては、ご清栄のことと存じます。

さて、当研究所が設立してから 1 年が過ぎようとしています。次年度も引き続き、「災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデル（日赤型モデル）の構築」に向け皆様とともに考えていきたいと思えます。

ついては、各部門において今後 3 年から 5 年間で取り組む研究課題について整理していただき、中長期目標について別紙様式にて収集し当研究所の中長期目標を築き上げたいと考えています。

以下のとおりお願い申し上げます。

## 1. 送付書類

### (1) 中長期（2023～2028 年）の目標等について

日赤型モデルに限らず、各部門で必要と考える内容についてご記入ください。

## 2. 提出期限、提出先

2023 年 1 月 11 日（水） 事務局（jrcdri@redcross.ac.jp）あて

(本件に関する連絡先)

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

事務局 力石 陽子

電話 03-3409-0875 (代)

03-3409-0684 (直)

mail: jrcdri@redcross.ac.jp

中長期目標等について  
～2023（令和5）～2028（令和9）年～

部門名

---

災害救護研究所の目標（仮）

災害発生から中長期にわたる包括的災害支援モデル（医療+生活+社会モデル）の構築  
-日赤型モデルの構築-

部門の中長期目標

部門の2023（令和5）年度目標

日赤型モデルの構築に向けて、今後3年から5年間で取り組む研究課題の抽出・整理と  
年度ごとの計画

\*日赤型モデルの構築に限らず課題としていることがありましたら、ご記入ください。

※行は自由に増減してください。

令和 4 年 11 月 25 日

災害救護研究所  
部門長 各位

災害救護研究所所長

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
2023（令和 5）年度研究計画申請について

部門長の皆様におかれては、ご清栄のことと存じます。

さて、令和 5 年度の研究計画の申請について以下のとおりお願い申し上げます。

## 1. 送付書類

- (1) 様式 1：2023（令和 5）年度研究計画書
- (2) 様式 2：研究経費内訳書
- (3) 様式 3：研究経費申請書
- (4) 研究計画書記入例 モデル 1（インタビュー調査）
- (5) 研究計画書記入例 モデル 2（アンケート調査・面接調査）
- (6) 研究費執行マニュアル

## 2. 記載方法および予算について

- (1) 研究計画書記入例に準じてご記入ください。
- (2) 1 つの研究テーマを複数年にわたり実施予定の場合は、年度ごとに研究実施計画と研究経費内訳書を分けてご記入ください。様式 3 の研究経費申請書は合算の上、申請願います。
  - a) 様式 2 の内訳書の表の左上の【○○年度 ○か年計画 ○年目】に数字を明記してください。
- (3) 複数の研究については各研究計画書に記載していただき、様式 3 の研究経費申請書は合算の上、申請願います。
  - a) 様式 1 と 2 の対応がわかるように①など数字を付して提出してください。
- (4) 各部門に対する単年度予算配分額は、原則として 135 万円を予定しています。これを超える予算案の場合には、事務局にご相談ください。

## 3. 研究計画書、研究経費内訳書の提出期限、提出先

2023 年 1 月 11 日（水） 事務局（jrcdri@redcross.ac.jp）あて

（本件に関する連絡先）

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所  
事務局 大江 薫

電話 03-3409-0875（代）

03-3409-0684（直）

mail: jrcdri@redcross.ac.jp



8.	参加者数	
9.	研究期間 データ収集期間	
10.	参加者の募集方法	
11.	データ収集方法	
12.	データ分析方法	
<p><b>II. 研究倫理</b></p> <p>日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会により、研究倫理審査を行います。 世界医師会の「ヘルシンキ宣言」以降の研究倫理に関する宣言、および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」「看護研究における倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」等の趣旨に沿って倫理的配慮を記載してください。</p>		
1.	説明に基づく同意	(説明と同意、強制力の排除、同意撤回、代諾、アセント、オプトアウト)
2.	個人情報・ プライバシー保護	(個人情報・要配慮個人情報の有無、プライバシー保護、匿名化、データ保管と破棄、収集したデータの二次利用の可能性)
3.	安全と危険 利益と負担	<p>該当する□に✓を記入してください。</p> <p>介入・調査の侵襲性  <input type="checkbox"/>あり ( <input type="checkbox"/>軽微な侵襲 <input type="checkbox"/>軽微を超える侵襲 )  <input type="checkbox"/>なし</p> <p>薬剤または医療機器の使用 <input type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし                  遺伝子解析 <input type="checkbox"/>あり <input type="checkbox"/>なし                  危険/負担：(介入による負担の他、研究参加のための時間や費用の負担を含む)                  安全/利益：</p>
	補償	補償措置 <input type="checkbox"/> あり (具体的に記入してください。) <input type="checkbox"/> なし
4.	報告・相談体制	(研究計画変更、有害事象等の発生、研究の中止、終了等の報告等) (参加者からの問い合わせ先窓口と具体的対応等)
5.	利益相反	<input type="checkbox"/> あり (具体的に記入してください。) <input type="checkbox"/> なし

Ⅲ. その他		
1.	他の研究費 併願申請状況	該当する□に✓を記入してください。 <input type="checkbox"/> 科研費（文部科学省-日本学術振興会科研費 JSPS） <input type="checkbox"/> 日本赤十字学園 <input type="checkbox"/> その他（具体的に記入してください。） <input type="checkbox"/> なし
2.	研究結果の還元	<input type="checkbox"/> 学会発表（具体的学会、予定時期を記入してください。） <input type="checkbox"/> 論文発表（具体的学会、予定時期を記入してください。） <input type="checkbox"/> HP公表

【添付資料】（該当する□に✓を記入してください。）

	研究計画書	<input type="checkbox"/>
	倫理教育受講証	<input type="checkbox"/> 別添
	同意説明文等	<input type="checkbox"/> 同意説明文 <input type="checkbox"/> 同意書 <input type="checkbox"/> 同意撤回書
	参考になる資料	<input type="checkbox"/> （施設への協力依頼書、参加手順書、アンケート用紙、ポスター等）
	その他	<input type="checkbox"/> （他施設の倫理審査承認書等）

研究経費内訳書

部門名 \_\_\_\_\_

研究代表者 氏名 ( \_\_\_\_\_ )

【 年度 ○か年計画 ○年目】

科 目		金額 (千円)	積 算 内 訳	品名・用途等	
助成対象経費	備品費	円	円		
	内 訳	教育研究用機器備品			
	消耗品費				
	内 訳	用品			
		その他の消耗品			
	旅費交通費				
	内 訳	国内			
		外国			
	人件費・謝金				
	内 訳	人件費			
		報酬手数料 (謝金)			
		渉外費 (謝礼品)			
		業務委託費			
	その他				
	内 訳	印刷製本費			
		賃借料			
会議費					
通信運搬費					
諸会費					
合 計					

- (注1) 助成の対象となる経費の取扱いは、参考(別紙3関係)のとおりとする。
- (注2) 金額は、費目毎に切り上げ、千円単位で記載する。
- (注3) 物品を購入するための経費については、参考(別紙3関係)を参照し、必要資料を別途、添付する。
- (注4) 2か年計画の場合は、年度ごとの研究活動経費内訳書を作成すること。

■ 助成対象経費以外で研究遂行に必要な経費がある場合には、下記にその金額を記入すること。

金額  円

## 研究経費申請書

(注：計算式が入っていますので項目追加する場合は計算式を変更してください)

項目名称が記入されている項目から数値を入れてください、各項目の合計金額が合計欄に算出されます。

〇〇年度

研究代表者 氏名 ( )

科目	内訳	金額	積算内訳
備品	合計	0	
	教育研究用機器	0	
	その他	0	
消耗品	合計	0	
	用品	0	
	その他の消耗品	0	
旅費交通費	合計	0	
	国内	0	
	外国	0	
人件費・謝金	合計	0	
	人件費	0	
	報酬手数料(謝金)	0	
	渉外費(謝礼品)	0	
	業務委託費	0	
その他	合計	0	
	印刷製本費	0	
	賃借料	0	
	会議費	0	
	通信運搬費	0	
	諸会費	0	
合計		0	

(注1) 助成の対象となる経費の取扱いは、参考(別紙3関係)のとおりとする。

(注2) 金額は、費目毎に切り上げ、千円単位で記載する。

(注3) 物品を購入するための経費については、参考(別紙3関係)を参照し、必要資料を別途、添付する。

(注4) 2か年計画の場合は、年度ごとの研究活動経費内訳書を作成すること。

■ 助成対象経費以外で研究遂行に必要な経費がある場合には、下記にその金額を記入すること。

金額 \_\_\_\_\_

2023(令和5)年度 研究計画書

部門名 災害看護部門

【研究組織】(必要に応じて行を増やしてください。)

役割	氏名	所属・職名	具体的役割分担
研究代表者	日赤花子	日本赤十字看護大学	研究統括者
研究分担者	A	△△看護専門学校	データ収集・分析
研究分担者	B	△△病院	データ収集・分析

【研究計画】

I. 研究計画の概要		
1.	研究テーマ	看護系教育機関における防災対策上の課題に関する研究 —東日本大震災時の学生の経験から—
2.	研究概要	(10行程度で記載してください。) 看護系大学における防災対策の検討は重要課題であり、日本看護系大学協議会においても課題となっている。そこで看護系大学における防災対策及び学生支援の対策を講じるために、東北大震災発生時に、自らも被災しながら地域住民への支援・救援活動に携わった看護学生の経験を明らかにする。 A 専門学校及び B 病院への協力依頼を行い、震災当時看護学生であった看護職、5名程度を対象に、当時の経験に関してインタビューを行う。その結果を分析し、看護系大学における防災対策の課題や学生支援の課題を明らかにする。
3.	研究背景	(先行研究及び関連文献の検討を含めて記述してください。) 2011年3月に発生した東日本大震災は日本に未曾有の被害をもたらし、地震及び津波発生による地域、病院等の減災・防災対策及び学校防災の在り方に重要な課題を残した。特に学校における体系的な防災教育の一層の推進を図るべきであることが提言された。 防災教育という観点から考えると、小中高等学校のみならず専門学校や大学等の高等教育機関における防災教育や対策も重要な課題となる。平成26年には、看護系大学協議会から、看護系大学における防災の在り方を検討するために防災マニュアルが整備され、看護系教育機関においても、この課題に対する意識が高まりつつある。 しかし、これまでの研究では、看護学生の防災に関する意識調査等(松清;2012, 松清;2009)は為されているが、災害発生時に看護教育の現場で何が起こったのか、その実態や対応に関する研究はほとんど行われてい



	<p>を作成し記入してください。</p> <p>1) 参加者がいる研究の場合は、参加者募集方法を書く。</p> <p>2) 文献収集、翻訳研究の場合は、収集・翻訳を行う計画を書く。</p> <p>3) 機材開発やシステム開発研究の場合は、開発を行う計画を書く。</p>	<p>る。</p> <p>(2)医療機関から研究協力の承認を得た後、研究参加者を募るため、医療機関の看護組織の承諾を得て、研究参加者募集のポスターを医療機関内に掲示させて頂く。ポスターの掲示は看護部に依頼する。</p> <p>(3)同時に、医療機関の看護組織の方から、研究参加者の条件を満たす該当者全員に、ポスター(資料2-1)、インタビューガイド(資料5)、研究参加申込書(資料2-2)、返信用切手貼付済の封筒を渡してもらう。研究参加希望者は直接、研究参加申込書を同封の返信用封筒に入れ、郵送でしてもらう。または、共同研究者に手渡してもらう。</p>
<p>11.</p>	<p>データ収集方法</p> <p>&lt;注意&gt;</p> <p>*研究方法によって異なるので、この欄は工夫して書いて下さい。</p>	<p>(1)半構成的インタビュー</p> <p>災害発生時に看護学生であった看護職の経験を分析するためには、災害発生時の文脈との関連で、その出来事をどのように意味づけたかに焦点をあてながら詳細なデータを収集する必要がある。そこでインタビューガイドに沿って(資料5)、時間を設けて半構成的インタビューを行う。データは許可を得てICレコーダーに録音する。</p>
<p>12.</p>	<p>データ分析方法</p> <p>&lt;注意&gt;</p> <p>*この欄も研究方法によって異なるので、工夫して書いてください。</p>	<p>(1)録音内容は業者に委託し逐語録とする。逐語録におこした、当事者の体験に関するインタビューデータを深く読み込む。</p> <p>(2)震災発生時から今日に至るまでの事象とその意味付けについて、その時の迷いや感情等も含めて、時間経過に即して一人ずつ分析し、個別にその特徴を分析し、個々の体験として再構成し結果を提示する。</p> <p>(3)それらに基づいて、震災時に教育現場で何が起きたか、学生の視点から、その時の判断や行動の特徴、学生支援に関して必要な課題や対応について考察する。</p>
<p><b>II. 研究倫理</b></p> <p>日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会により、研究倫理審査を行います。</p> <p>世界医師会の「ヘルシンキ宣言」以降の研究倫理に関する宣言、および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」「看護研究における倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」等の趣旨に沿って倫理的配慮を記載してください。</p>		

1.	説明に基づく同意	<p>(説明と同意、強制力の排除、同意撤回、代諾、アセント、オプトアウト)</p> <p>*代諾：本人の代理として同意・承諾の手続をすること</p> <p>*アセント：研究協力者が未成年の場合、対象者に分かりやすい言葉で十分説明し理解が得られるようにすること</p> <p>*オプトアウト：研究対象者に一人ずつ同意を得る代わりに、研究概要などの情報を通知あるいは公開し、研究の実施継続に関して、対象者が拒否できる機会を保証すること</p> <p>(1)研究依頼施設に対しては、郵送した本研究計画書と文書(資料1)を用いて電話により、施設管理者に説明を行い、同意を得る。さらに、研究参加者に対しては、文書および口頭で、研究目的や方法、研究成果の公表、協力への依頼及び辞退は任意であることなどについて文書を用いて説明して承諾を得る。一度同意した後に同意を撤回する場合には、同意撤回書への記入および同封した封書での返送を依頼する。</p>
2.	個人情報・プライバシー保護	<p>(個人情報・要配慮個人情報の有無、プライバシー保護、匿名化、データ保管と破棄、収集したデータの二次利用の可能性)</p> <p>(1) 研究参加者および組織の匿名性を保持する。インタビューで語られる教員や学生の個人情報についても匿名化し、個人が特定されないよう慎重に取り扱う。研究参加者や組織など個人あるいは組織が特定される情報は一切排除し、ID 番号や記号化して置き換え使用する。連結した情報に関しては●○に保管し、個人情報の保護につとめ、研究終了後にはシュレッダーにかけて破棄する。</p> <p>(2) 研究データを閲覧できるのは、研究組織のメンバーのみである。</p> <p>(3) 研究データは○○に保管するとともに、研究終了後10年間保管のち、破棄をする。</p> <p>(4) 録音データの逐語録作成は業者に委託するが、プライバシーポリシーの公表をしている等の業者に委託するとともに契約書を交わす。</p>
3.	安全と危険 利益と負担	<p>該当する□に✓を記入してください。</p> <p>介入・調査の侵襲性 □あり(□軽微な侵襲 □軽微を超える侵襲) <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>薬剤または医療機器の使用 □あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>遺伝子解析 □あり <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>危険/負担とそれらに対する配慮・措置：(介入による負担の他、研究参加のための時間や費用の負担を含む)</p> <p>・本研究への参加により審査当時の記憶がよみがえったり、またインタビュー後に思い起こされ、心理的負担を生じる可能性がある。また勤務して</p>

		<p>いる看護職であるため、勤務との兼ね合いで時間的負担を生じることが想定される。</p> <p>これらに対しては、インタビュー途中であっても表情や口調等からインタビューを継続することが困難な状況と考えられる際には、途中でであっても中断もしくは中止する。またインタビュー終了後日にちが経過してからも不調が生じた際には院内のカウンセラーにつなぐなど適切な対応をとる。</p> <p>安全/利益：。当時の体験を語っていただくことで学生支援に関して必要な課題や対応を検討することに貢献することができる。</p>
	補償	<p>補償措置 <input type="checkbox"/>あり (具体的に記入してください。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
4.	報告・相談体制	<p>(研究計画変更、有害事象等の発生、研究の中止、終了等の報告等)</p> <p>(参加者からの問い合わせ先窓口と具体的対応等)</p> <p>研究代表者 日赤花子 メールアドレス、hanako@redcross.ac.jp</p>
5.	利益相反	<p><input type="checkbox"/>あり (具体的に記入してください。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
<b>III. その他</b>		
1.	他の研究費 併願申請状況	<p>該当する<input type="checkbox"/>に<input checked="" type="checkbox"/>を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/>科研費 (文部科学省-日本学術振興会科研費 JSPS)</p> <p><input type="checkbox"/>日本赤十字学園</p> <p><input type="checkbox"/>その他 (具体的に記入してください。)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>なし</p>
2.	研究結果の還元	<p><input checked="" type="checkbox"/>学会発表 (具体的学会、予定時期を記入してください。)</p> <p>日本赤十字看護学会総会、2020年7月</p> <p><input type="checkbox"/>論文発表 (具体的学会、予定時期を記入してください。)</p> <p><input type="checkbox"/>HP公表</p>

【研究計画書(様式1)に添付する資料】(該当するにを記入してください。)

	倫理教育受講証	<input checked="" type="checkbox"/> 別添
	同意説明文等	<input checked="" type="checkbox"/> 説明文 <input checked="" type="checkbox"/> 同意書 <input checked="" type="checkbox"/> 同意撤回書
	参考資料	<input checked="" type="checkbox"/> (施設への協力依頼書、参加手順書、アンケート用紙、インタビューガイド、ポスター等)
	その他	<input type="checkbox"/> (他施設の倫理審査承認書等)

2023 (令和5) 年度 研究計画書

部門名 災害看護部門

【研究組織】 (必要に応じて行を増やしてください。)

役割	氏名	所属・職名	具体的役割分担
研究代表者	日赤花子	日本赤十字看護大学	研究総括
研究分担者	A	△△看護専門学校	調査計画
研究分担者	B	△△病院	調査データ分析

【研究計画】

I. 研究計画の概要		
1.	研究テーマ	看護系大学における防災対策・教育の実態
2.	研究概要	<p>(10行程度で記載してください。)</p> <p>東日本大震災以後、国内の防災・減災対策は極めて重要となり、すでに日本看護系大学協議会からも防災マニュアル指針が出されている。いっぽう、このマニュアルの活用程度や、個々の大学が具体的な防災対策等をどの程度講じているのか実態は明確ではない。</p> <p>本研究では、①アンケート調査と②面接調査を実施する。①では全国の看護系大学 270校、および、:A系列の専門学校 16校を対象にアンケート調査をおこなう。また、②としては A 系列の 6 大学及び専門学校 6~12 校に研究依頼を行い、研究参加者を 18 名に対して面接調査を実施する。得られたデータは、①SPSS にて基本統計量及び記述統計分析を行い、②質的記述的分析を行い、看護系教育機関の実態を把握し、課題を明確にしたうえで現状に即した対策を講じていくための一助とする。</p>
3.	研究背景	<p>(先行研究及び関連文献の検討を含めて記述してください。)</p> <p>東日本大震災以後、国内の防災・減災対策は国及び地方自治体を始め様々なレベルで検討されている。なかでも防災教育という視点から、多角的に防災を学ぶための教育の必要性が指摘されている (2013.8.30.朝日新聞)。</p> <p>この課題は高等教育機関にとっても重要な課題である。特に看護系の高等教育機関である看護系大学、教育機関の中でも最も多くの養成数をもつ看護専門学校にとっては、自らの命を守るための防災意識や安全行動がとれるための防災教育を行だけでなく、災害時発生時に看護教育機関として地域住民や近隣の医療福祉施設の患者、入居者、家族等の命と人権を守るための諸活動を担う等の課題を抱えている。</p> <p>すでに看護系の高等教育機関の防災対策に関しては、日本看護系大学協</p>





	<p>く。</p> <p>3) 文献収集、翻訳研究の場合は、収集・翻訳を行う計画を書く。</p> <p>4) 機材開発やシステム開発研究の場合は、開発を行う計画を書く。</p>	<p>を無作為抽出しインタビュー先をリストアップする) に研究依頼を行い、研究参加者を18名程度募集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の募り方：専門学校については、A系列の各ブロックから1~2校を便宜的に抽出する。各大学および専門学校の長に書面により依頼を行い、該当者を紹介していただき、承諾が得られた方を参加者とする。</li> <li>・面接内容：防災対策に関する取り組みや実情や課題等</li> </ul>
11.	<p>データ収集方法</p> <p>&lt;注意&gt; *研究方法によって異なるので、この欄は工夫して書いて下さい。</p>	<p>a. アンケート調査 上記アンケート用紙を、対象教育機関に郵送する。返却のための切手・封筒等は同封し、同意した施設は研究者に返送する。</p> <p>b. 面接調査 参加者と面接日時・場所の調整を行った後、対面にて(コロナ禍ではWEB、面談もあり)・1回あたり60分のインタビューを1回実施し、データは許可を得てICレコーダーに録音する。</p>
12.	<p>データ分析方法</p> <p>&lt;注意&gt; *この欄も研究方法によって異なるので、工夫して書いてください。</p>	<p>a アンケート調査 ・統計ソフト SPSS Statistics Ver.23 を使用し分析し、記述統計量を算出する。</p> <p>b 面接調査 ・インタビュー内容は逐語録に起こし、防災対策に関する取り組みや実情や課題に関して分析する。</p>
<p>II. 研究倫理</p> <p>日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会により、研究倫理審査を行います。</p> <p>世界医師会の「ヘルシンキ宣言」以降の研究倫理に関する宣言、および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」「看護研究における倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」等の趣旨に沿って倫理的配慮を記載してください。</p>		
1.	説明に基づく同意	(説明と同意、強制力の排除、同意撤回、代諾、アセント、オプトアウト)

		<p>*代諾：本人の代理として同意・承諾の手続をすること</p> <p>*アセント：研究協力者が未成年の場合、対象者に分かりやすい言葉で十分説明し理解が得られるようにすること</p> <p>*オプトアウト：研究対象者に一人ずつ同意を得る代わりに、研究概要などの情報を通知あるいは公開し、研究の実施継続に関して、対象者が拒否できる機会を保証すること</p> <p>(1)研究者が所属する施設の研究倫理審査委員会の承認を受けてから、研究を実施する。</p> <p>(2)アンケート調査の場合は、アンケート用紙の返信をもって同意を得られたものとする。</p> <p>(3)インタビュー調査の場合は、書面による研究協力への同意を得た人のみを対象とし、途中中断してもよいことを伝え、自由意志による参加を保証する。途中中断の場合に使用できる同意撤回書を準備する。</p>
<p>2.</p>	<p>個人情報・プライバシー保護</p>	<p>(個人情報・要配慮個人情報の有無、プライバシー保護、匿名化、データ保管と破棄、収集したデータの二次利用の可能性)</p> <p>(1)研究結果は、研究参加者の関連学会や報告書にて公表すること、研究協力をいただいた施設には報告書を送付することをお約束する。また、公表に際しては個人及び施設を匿名化し、個人及び施設が特定されないよう配慮する。</p> <p>(2)データ入力作業や逐語録作成作業は業者に委託するが、プライバシーポリシーの公表をしている等の業者に委託し、個人情報を保護する。</p>
<p>3.</p>	<p>安全と危険 利益と負担</p>	<p>該当する□に✓を記入してください。</p> <p>介入・調査の侵襲性 □あり(□軽微な侵襲 □軽微を超える侵襲)      <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>薬剤または医療機器の使用    □あり    <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>遺伝子解析    □あり    <input checked="" type="checkbox"/>なし</p> <p>危険/負担：(介入による負担の他、研究参加のための時間や費用の負担を含む) 質問紙調査及び面接調査両者において時間的負担を生じる。</p> <p>インタビュー調査においては、インタビュー途中であっても表情や口調等からインタビューを継続することが困難な状況と考えられる際には、途中でであっても中断もしくは中止する。またインタビュー終了後日にちが経過してからも不調が生じた際には院内のカウンセラーにつなぐなど適切な対応をとる。</p> <p>安全/利益：日頃自校で取り組んでいる防災対策に関する取り組みや実情</p>

		や課題が明らかになり、施設レベルで改善に向けて検討をしていく一助となる。
	補償	補償措置 <input type="checkbox"/> あり (具体的に記入してください) <input type="checkbox"/> なし
4.	報告・相談体制	(研究計画変更、有害事象等の発生、研究の中止、終了等の報告等) (参加者からの問い合わせ先窓口と具体的対応等) 研究代表者：○○ 連絡先：△
5.	利益相反	<input type="checkbox"/> あり (具体的に記入してください) <input type="checkbox"/> なし
<b>III. その他</b>		
1.	他の研究費 併願申請状況	該当する <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> を記入してください。 <input type="checkbox"/> 科研費 (文部科学省-日本学術振興会科研費 JSPS) <input type="checkbox"/> 日本赤十字学園 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に記入してください) <input checked="" type="checkbox"/> なし
2.	研究結果の還元	<input type="checkbox"/> 学会発表 (具体的学会、予定時期を記入してください) 日本赤十字看護学会、202〇年、日本災害看護学会、202〇年〇月 <input type="checkbox"/> 論文発表 (具体的学会、予定時期を記入してください) <input type="checkbox"/> HP公表

【研究計画書 (様式1) に添付する資料】 (該当するにを記入してください。)

	倫理教育受講証	<input type="checkbox"/> 別添
	同意説明文等	<input type="checkbox"/> 説明文 <input type="checkbox"/> 同意書 <input type="checkbox"/> 同意撤回書
	参考資料	<input type="checkbox"/> (施設への協力依頼書、参加手順書、アンケート用紙、インタビューガイド、ポスター等)
	その他	<input type="checkbox"/> (他施設の倫理審査承認書等)

No	部門	部門長	研究テーマ・概要	助成決定額(円)	支出額	予算残額	執行率	助成額決定の根拠
1	01災害看護部門	中野 実	災害看護における救護班の役割検討 ～日赤救護活動に係る教育・育成の支援～	1,000,000	12,320	987,680	1.2%	基準額 (1,367,000円) 以下なので満額助成
2	02国際医療看護部門 05国際救護部門	中出 雅治 佐藤 展章	次世代の医療看護施設/機材の開発 (国際救護部門との共同研究)	4,287,000	1,623,587	2,663,413	37.9%	基準額1,367,000円×2部門+777,500円×2 (繰越2,000円減額)
3	03災害看護部門	内木 美恵	東日本大震災における医療救護班での看護師の看護実践	810,000	249,629	560,371	30.8%	基準額 (1,367,000円) 以下なので満額助成
4	04防災減災部門	白土 直樹	アメリカ赤十字社のICS (Incident Command System) に関する基礎的研究	1,315,000	1,306,000	9,000	99.3%	基準額 (1,367,000円) 以下なので満額助成
5	06心理社会的支援部門	森光 玲雄	①サイコソジカル・ファーストエイド (Psychological First Aid；以下PFA) の普及 ②COVID-19パンデミック下における医療従事者のメンタルヘルズ調査 ③COVID-19パンデミック下の医療機関におけるスタッフへの精神保健および心理社会的支援の実態調査 ④宮城県における日赤救護班要員等のサポートシステムの構築と評価 ⑤日本赤十字社の国際緊急救護活動における災害時心理社会的支援の変革-EURでの心理社会的支援	2,144,000	276,248	1,867,752	12.9%	基準額(1,367,000円)+777,500円 (繰越800円減額)
6	07感染症部門	古宮 伸洋	被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究	300,000	16,720	283,280	5.6%	基準額 (1,367,000円) 以下なので満額助成
7	08災害ボランティア部門	安江 一	災害時における赤十字ボランティアの特徴を活かした活動と活動に必要な環境整備について	300,000	65,566	234,434	21.9%	基準額 (1,367,000円) 以下なので満額助成
8	09災害看護技術部門	曾藤 恭裕	①災害時の孤立地域に関する情報収集・共有支援に関する研究 ②厳しい気候環境下における避難所の生活環境確保に関する研究 ③厳しい気候環境下における救護要員の活動支援に関する研究 ④災害時の外部給電車両の活用モデル構築に関する研究	2,144,000	406,191	1,737,809	18.9%	基準額(1,367,000円)+777,500円 (繰越800円減額)
<b>研究費計</b>				<b>12,300,000</b>	<b>3,956,261</b>	<b>8,343,739</b>	<b>32.2%</b>	
<b>予備費</b>				<b>1,200,000</b>	<b>0</b>	<b>1,200,000</b>	<b>0.0%</b>	
<b>管理費</b>				<b>6,500,000</b>	<b>2,523,956</b>	<b>3,976,044</b>	<b>38.8%</b>	
<b>合計</b>				<b>20,000,000</b>	<b>6,480,217</b>	<b>13,519,783</b>	<b>32.4%</b>	

※本社助成金20,000,000円のうち、管理費6,500,000円、研究予備費1,200,000円を差し引いた12,360,000円を研究費とする。

※研究費12,360,000円を9部門で割った136万7千円を各部門の基準額とする。

※基準額を下回る申請(4部門)は、満額を助成する。

※基準額との差額分(3,110,000円)を4部門で割った額を基準額を上回る申請部門に追加助成する。

## 予算管理について

### (1) 事務費について

研究の遂行にあたっては研究員以外に当該研究の資料整理、経理補助等の事務を担当する事務担当者を必要とするケースが多いと推測される。

これについては「研究費執行マニュアル」10頁「謝金・人件費（アルバイト）」に示すとおり人件費を支払うことになるが、以下のような場合は、特例として管理費として計上する。

#### ◆特例◆

部門長が所属する組織の所属職員に当該研究の資料整理、経理補助等の事務を実施させる場合は、研究費の10%を上限とし所属施設に管理費※として支払うことができる。

※本ケースについては「管理費」とすることで大学経理担当者が計上先を明確に区別することとしている。

## 予算の補正について

### 1. 基本となる考え方

交付された研究費については次年度への繰り越しはできない。

### 2. 予算の補正について（案）

研究にかかる助成金について最大限有効に活用することと目的に予算補正等の手順を踏むこととする。

- (1) 運営委員会において、各部門の予算の執行状況及び何らかの事情で未執行となる金額について調査をする。
- (2) 事務局は、前記（1）の結果、補正予算の編成の必要性を判断し、予算補正をする場合は、各部門長あてに補正予算申請を通知する。
- (3) 各部門長は、必要な場合は、補正予算申請を事務局あて提出する。
- (4) 事務局は補正予算申請にもとづき助成決定を行う。

2023 (令和5) 附属災害救護研究所 年間スケジュール (案)

※会議日程の○は、令和4年度の実績を参考

月	連絡協議会 (年2回)	運営委員会 (年4回)	部門カンファレンス (年4回)	学内部会	各部門の研究 (当初予算の動き)	実績報告書
4月		○		○	(補正予算編成をする場合)	前年度3月下旬 2022(令和4) 年度原稿提出
5月	○ 下旬			○	内示・計画書修正 研究計画及び予算承認 決定通知	
6月			○	○	1 カ月	2022 (令和4) 年度 発行
7月			○	○	2 カ月	
8月				○	3 カ月	
9月		○		○	4 カ月 当該年度予算執行状況等調査 (案内)	
10月			○	○	5 カ月 予算執行状況及び未執行額に ついての報告	補正予算編成方針の通知 補正予算要求申請
11月		○		○	6 カ月 進捗の中間報告 (次年度目標及び研究計画提案案内)	2023 (令和5) 年度 記入様式配信
12月				○	7 カ月	補正予算配分の決定
1月				○	8 カ月 1月11日：次年度研究計画申請	補正予算による研究開始 (研究期間約3カ月)
2月		○	○	○	9 カ月 次年度目標及び研究計画報告?	
3月	○			○	3月2週目：予算執行済み 決算報告	3月2週目：予算執行済み
						下旬 2023 (令和5) 年度原稿提出

## 2022（令和4）年度研究予算見込み及び補正予算申請について（調査）

令和4年11月30日（水）提出

部門名：

水色のセルには、金額を入力し、黄緑色のセルは該当する内容を選択してください。  
黄色セルは自動計算されます。

## 1. 2022（令和4）年度研究予算見込み

2022（令和4）年度研究助成決定額

 円

現在の執行額

※2022（令和4）年11月17日時点

 円

執行見込み額

※2022（令和4）年3月11日執行〆切

 円

未執行予定額（残額）※自動計算

 円

## 2. 2022（令和4）年度研究予算見込み

補正予算の執行〆切は2023（令和5）年3月11日となります。

補正予算申請の有無

セルの右下▼リストからを選択してください

「申請する」と回答した方は、以下の内容を入力してください。

補正予算申請額（概算）

 円

研究の概要等

※補正予算配分決定後、研究計画書の提出依頼についてご連絡します。

## 2023（令和 5）災害救護セミナー企画（案）

- 1 目的 災害救護研究所は設置後 2 年目を迎えるが、まだまだ国内における認知度は十分とは言えない状況にある。2023（令和 5）年の災害救護セミナーにあつては、これからの日本の災害対応を考える一助として、本研究所における各部門の研究活動を紹介することで現在の国内における災害救護活動を取り巻く諸課題について議論を深めることを目的とする。さらには、本セミナーを通じ本研究所のプレゼンスの向上を企図し、行政を含む各関係機関との連携強化へとつなげることを期待したい。
- 2 日時 2023（令和 5）年 2 月 18 日（土）13:00～15:30
- 3 場所 Zoom によるオンライン配信（日本赤十字看護大学を拠点）  
※（株）アートワークスによる配信
- 4 テーマ 「これからの日本の災害対応を考える」

## 5 プログラム

9:00	関係者集合	広尾キャンパスもしくは各自配信場所
10:00	配信リハ	
12:00	昼食休憩	
12:50	関係者待機	
12:50	入室許可開始	
13:00	開会挨拶（5分）	富田博樹（学校法人日本赤十字学園理事長） ←司会進行者が紹介する。
13:05	座長挨拶（5分）	山本保博（医療法人伯鳳会東京曳舟病院病院長、一般社団法人協力隊を育てる会会長、日本医科大学名誉教授） ←司会進行者が紹介する。
13:10	基調講演「タイトル」 （30分）	上村昇（内閣府大臣官房審議官（防災担当）） ←座長が紹介する。
13:40	各部門報告 （7分×9部門＝63分）	←座長の仕切りにより順次報告する。
14:43	休憩（12分）	
14:55	全体討論（30分）  ※参加者全員が顔出し	←座長の仕切りにより適宜発言する。 ←参加者からの質問はチャット受付により司会進行者が読み上げ、その場で該当者が回答する。 ←討論終盤に座長が総括発言する。
15:25	閉会挨拶	守田美奈子（日本赤十字看護大学学長）

15:30	セミナー終了	
15:30	オンラインによる関係者振り返り (30分)	
16:00	業者撤収 (30分)	

## 6 今後の予定

11月25日(金)	運営委員会にて企画決定
12月1日(木)	学内部会
12月16日(金)	座長、演者(部門長含む)への正式依頼文書発出
12月22日(木)	チラシ送付期限、HP up 期限
12月23日(金)	座長、演者の参加場所(広尾キャンパス他)の確認
1月5日(木)	学内部会
2月6日(月) 23:55	参加申し込み期限
2月7日(火)	参加者集計・リスト化
2月10日(金)	参加者へのURL送信
2月10日(金)	演者資料締め切り、座長、演者の紹介用経歴締め切り
2月17日(金)	参加者へのURL送信(リマインド)
2月17日(金)	運営委員会
2月18日(土)	セミナー当日

## 7 予算

オンライン配信操作(動画DVD作成含む)委託料	1,589,550円(参考R3年度)
舞台看板、屋外看板製作代	125,400円( // )
チラシ作成料	277,478円( // )
チラシ送付料	88,027円( // )
外部講師謝礼(旅費)	272,592円( // )
広尾キャンパス参加者昼食代、湯茶代	91,111円( // )
アルバイト代	39,600円( // )